

実施報告書

HT25166

【プログラム名】量子暗号の原理を学ぼう～盗聴不可能な未来の暗号通信～



開催日：8月2日(金)

実施機関：立命館大学  
(実施場所) (びわこ・くさつキャンパス  
クリエーションコア6F)

実施代表者：山下 茂  
(所属・職名) (情報理工学部・教授)

受：高校生16名

関連URL：<http://www.ritsumeiji.jp/pickup/detail/j/topics/12080/date/8/year/2013>

【実施内容】

・受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫し講義内容と実験内容を説明する豊富な図を用いたスライドを冊子にまとめて全員に配布した。受講生が単に話を聞くだけにとどまらないように、講義の中では、グループ単位で一緒に演習問題を回答する時間を設けて、講義中に受講者に考えてもらえるように工夫した。また、デモンストレーションでは、受講者自らが考えられるように各自で実験結果の検証を行う形式にした。

・当日のスケジュール

当初の計画通りで、以下のプログラムをほぼ時間通り行った。

・実施の様子

1. 開講式

挨拶のあと、科研費や日本の科学技術政策について説明を行った。



2. 講義その1

簡単な量子力学の仕組みを光の偏向を体験しながら確認し、量子通信のモデルについて講義を行った。講義の中では、自ら考えて問題などに回答してもらった。



3. 昼休憩(昼食):研究室で食事をしながら  
大学生と交流

大学での勉強や研究についての説明を  
大学生よりしてもらった。



4. 講義その2

量子暗号についての講義を行った。  
演習問題も解いてもらい理解を深めた。



5. クッキータイム

講師、大学生と受講者で交流を行った。  
特に、受講者の進路に関する相談や大学生活一般の話などを行った。



6. 体験型デモンストレーション

実際に量子暗号のデモンストレーション実験を  
受講者に行ってもらい、受講者自身で検証して  
もらった。



7. 修了式

アンケート記入, 未来博士号授与を行った.



・事務局との協力体制

事務局が広報のチラシ発送, 当日の受付, 事務用品の準備などを全て行い, 実施代表者は内容にのみ専念することができた. 本大学の事務局は, 既に実績とノウハウがあるため, 本企画の実施に全く支障がなかった.

・広報体制

事務局が近隣の高校に広報のチラシを送付した. また, 附属高校の関係者などにも宣伝を行った.

・安全体制

今回の実験にはレーザーポインタを使用した. 受講者は観察はするが直接接触らず, 眼に照射するなどの問題は起こらないと思われた. それでも, TAには安全確認を徹底し, 保険にも加入した.

・アンケート結果

参加者からは, 「量子暗号を理解できた. これからも科学を学んでいきたい。」「実験が楽しかった。」「大学の雰囲気がかかった. 大学生の方と会話することができて有意義だった。」「大学生の方が優しく教えてくれてわかりやすくてよかった。」(当日アンケートより抜粋)などの感想があった.

【実施分担者】

なし

【実施協力者】

8 名

【事務担当者】

川根 義教 リサーチオフィス(BKC) 課員